

支援学校

内容
体温調節、発作などについての見守り。視覚や具体物を使っての指導場面を増やす。
短期記憶に課題があるため忘れてしまっていることは言葉かけをして思い出させるように働きかけをする。聴覚認知に課題があるので、一度に多くのことを指示せず、順を追って一つ一つ説明する。
保護者の障がい受容等の配慮に努めている。

②「関係機関への相談」

小学校

内容
専門の医療機関にて支援や指導についてアドバイスをもらっている。
保護者、子ども相談センター等と連携を取りながら、児童にとって必要な支援を相談し、模索しながら実践している。
医療機関や機能回復訓練施設との相談、連携
病院・教育委員会との連携
修学旅行・運動会の参加については、医療機関と相談し実施している。
市教育センターに相談している。
医療機関や機能回復訓練施設との相談、連携。
リハビリに行っている病院の医師に相談。

中学校

内容
校医への相談
主治医(医療機関)との連携。
看護指導員とも相談しながら、適宜支援
医療機関と相談し、アドバイスをもらっている。
市の教育機関などにも相談し連携している。
教育委員会との連携、相談。
教委の巡回相談を受けたり、支援学校から支援の仕方に関するアドバイスを受けている。
(定期的に)理学療法士に来てもらい、リハビリ指導を受ける。

高等学校

内容
主治医・ケースワーカーと関係職員との連絡会
病院と連携をとり、支援プログラムを検討中
外部機関の心理相談センターと問題解決をはかるよう連携している。
主治医訪問を行い、事故後の経過と現在の状況、配慮事項等を確認

支援学校

内容
定期的に病院に通っている。
「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」の作成において、保護者(本人)と教職員、及び施設と連携を取っている。

③「その他」

小学校

内容
保護者が定期的に通院させており、その情報を保護者と交換している。今後、支援教育関係機関と関わる方向にある。
母と相談
発達診断受診・機能訓練・言語訓練

中学校

内容
職員、場合によってはクラスで話し、協力体制を作る。
保護者を通して主治医と連携
主治医訪問をして、情報交換、連携を図っている。
マンツーマンで全面介助。看護師、機能訓練士の派遣

高等学校

内容
支援委員会の立ち上げ(定期的に会議を開く)
職員、場合によってはクラスで話し、協力体制を作る。
主治医への面談(本人の状況、学校生活に対することなどの報告・連携・相談)

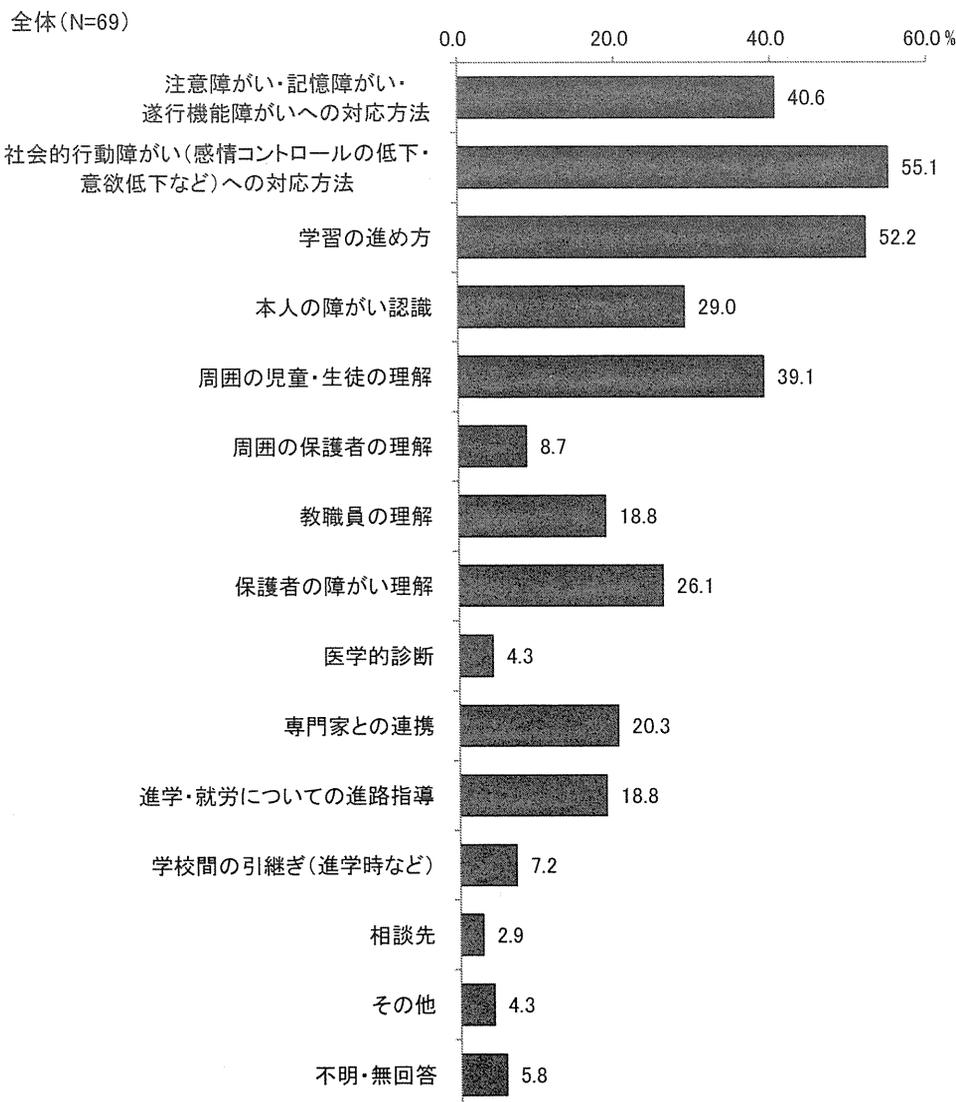
Q5 ※Q3「いる」に回答した方※

高次脳機能障がい児・者の支援に際し、現在、不足している取組や情報を選んでください。

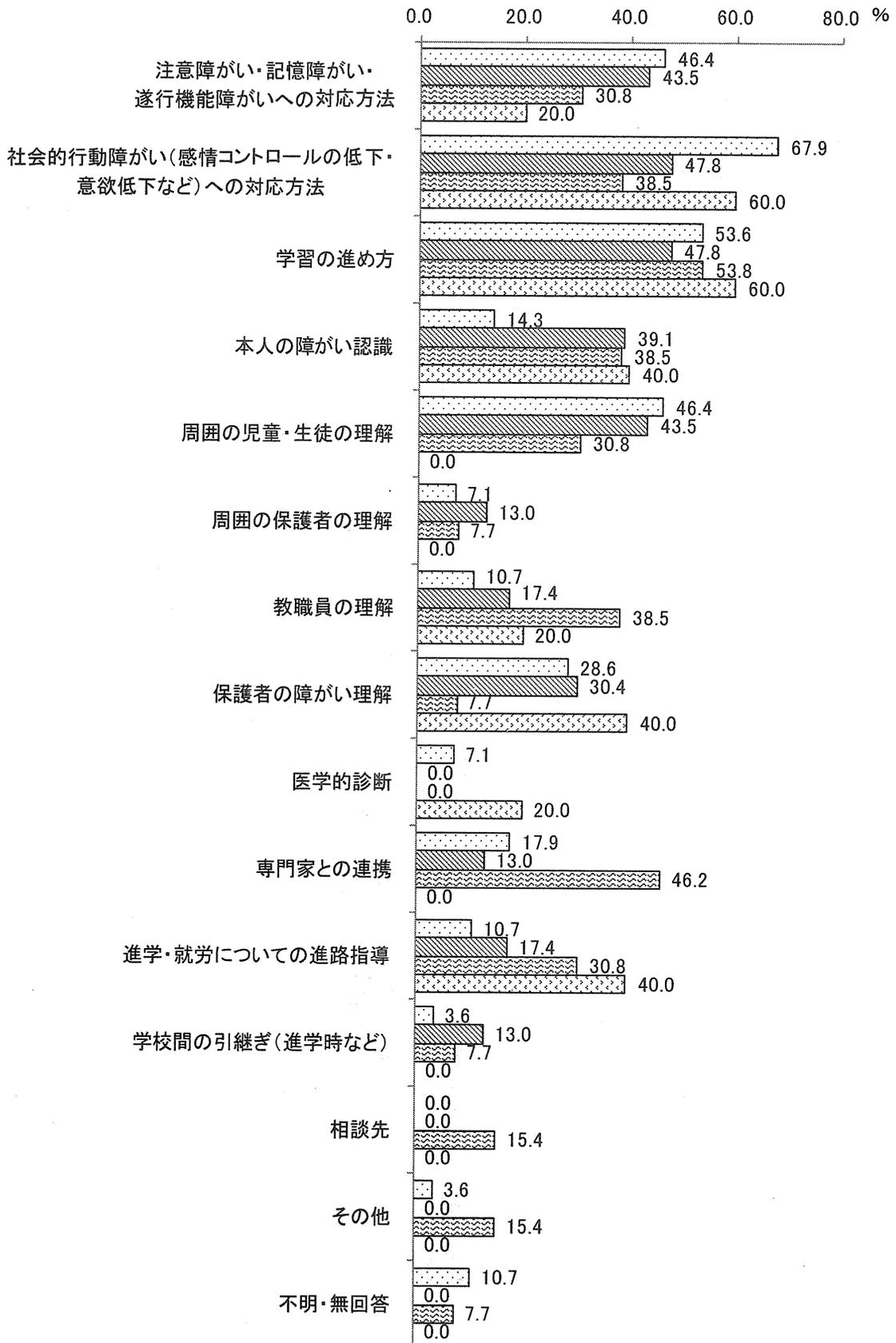
(5つまで複数回答)

支援に際し、不足している取組や情報についてみると、全体では「社会的行動障がい(感情コントロールの低下・意欲低下など)への対応方法」が 55.1%で最も多く、次いで「学習の進め方」が 52.2%、「注意障がい・記憶障がい・遂行障がいへの対応方法」が 40.6%となっています。

回答のあった項目を学校区分で見ると、「学習の進め方」については各学校とも多くなっていますが、「注意障がい・記憶障がい・遂行機能障がいへの対応方法」、「社会的行動障がい(感情コントロールの低下・意欲低下など)への対応方法」は、小学校、中学校、高等学校の順に高くなっています。一方、「教職員の理解」、「進学・就労についての進路指導」については、反対に高等学校、中学校、小学校の順で高くなっています。また、「専門家との連携」は、高等学校で多く見られます。



■ 学校別にみる回答



□ 小学校(N=28) ▨ 中学校(N=23) ▩ 高等学校(N=13) ▤ 支援学校(N=5)

※Q5の「その他」回答の内容

小学校

内容	件数
支援員の不足	1

中学校

内容	件数
「高次脳機能障がい」についての理解・認知	1

高等学校

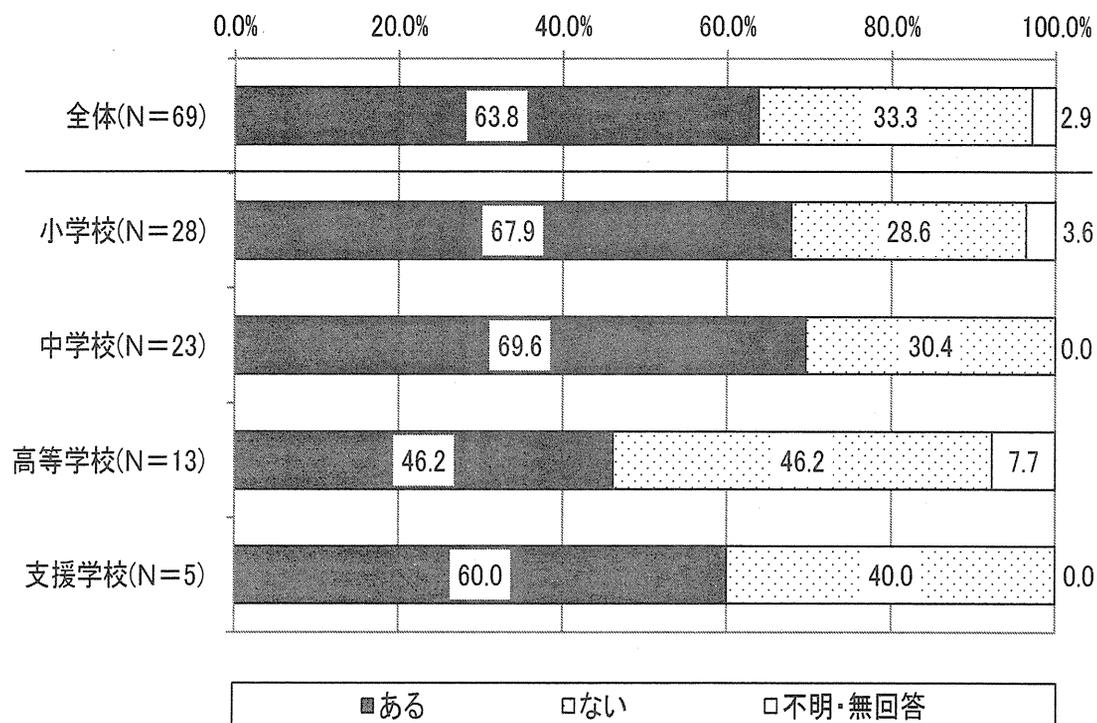
内容	件数
専門知識の有する教職員がいないこと。	1
学校内での支援組織の充実	1
障がい者手帳について詳しく知りたい。学校生活における細やかな配慮について。(生活面・学習面)	1

Q6 ※Q3「いる」に回答した方※

高次脳機能障がいについて、相談するところがありますか。(単数回答)

高次脳機能障がいのことを相談するところについてみると、全体では「(相談するところ)がある」の割合が63.8%、「(相談するところ)ない」が33.3%となっています。

学校別にみると、高等学校では「(相談するところ)がある」の割合が、他の学校区分よりも低く、46.2%となっています。



※Q6の相談先（具体的に）の主な内容

小学校

種別	内容	件数
医療関係 23(42.6%)	医療機関(主治医含む)	22
	大阪府立急性期・総合医療センター	1
教育関係 26(48.1%)	教育センター	11
	市町村教育委員会	11
	スクールカウンセラー	1
	その他教育関係	3
福祉関係 4(7.4%)	市町村児童関係課	2
	その他福祉関係	2
その他 1(1.9%)	その他	1

(計) 54

中学校

種別	内容	件数
医療関係 20(51.3%)	医療機関(主治医含む)	18
	大阪府立急性期・総合医療センター	2
教育関係 11(28.2%)	スクールカウンセラー	4
	教育センター	3
	市町村教育委員会	3
	その他教育関係	1
福祉関係 7(17.9%)	児童相談所	3
	市町村児童関係課	3
	その他福祉関係	1
その他 1(2.6%)	その他	1

(計) 39

高等学校

種別	内容	件数
医療関係 8(80.0%)	医療機関(主治医含む)	8
教育関係 2(20.2%)	教育センター	1
	スクールカウンセラー	1

(計) 10

支援学校

種別	内容	件数
医療関係 3(60.0%)	医療機関(主治医含む)	3
教育関係 1(20.0%)	その他教育関係	1
福祉関係 1(20.0%)	障がい者自立相談支援センター	1

(計) 5

(注)

「医療機関(主治医含む)」には、国公立の医療センター、学校医等を含んでいる。
 「その他教育関係」には、支援学校、スクールソーシャルワーカー等も含んでいる。
 「その他福祉関係」には、自閉症スペクトラム支援士等を含んでいる。
 「その他」には、保護者を含んでいる。

※その他、ご意見・ご提案等ございましたらご記入ください。

自由意見（ご意見・ご提案等）（抜粋）

小学校自由意見

内 容
高次機能障がい等さまざまな障がいについて、相談できる機関の周知と相談できる機関を増やしていただけたら助かります。
高次脳機能障がいについて、講演があれば参加したい。学校現場で特に注意、心がける支援があれば、お話を聞きたいです。
現在、本校に在籍していますが、対象児の支援を十分におこなう体制にはなっていません。スタッフ不足です。
わからないことが多くすみません。脳腫瘍手術後やもやもや病と高次脳機能障がいとの関連については不勉強です。
情報が少ない。
小・中学校において、もう既に市町村の要保護対策ネットワーク会議（被虐待児童等を対象とした支援ネットワーク）で支援対象となっている児童・生徒の中に本調査にあげられている高次脳機能障がいであるのか否かが不明である場合が考えられます。また、発達障がいとして診断のついている児童・生徒の中にも以前虐待を受けていた場合も数多くあります。発達障がいよりは環境的要因の方が大きいと考えられる児童が在籍しており、その対応に日々追われています。本調査の趣旨・目的についてはたいへん共感いたしますが、実態の把握については難しい面が多く、正確な数字は得にくいように感じます。
高次脳機能障がいと診断された児童が入学、転入してきた際は、支援についていろいろと参考にさせていただきますので、研修などの案内を希望しています。
最近数年間のことはわかりますが、かなり以前のことはわかりません。
高次脳機能障がい子どもたちは、年々学校現場で増加しているように思います。ただ、そういった子どもたちに対応する、人材や連携できる機関が少ない（そういった情報も含め）のも現実です。予算の少ない学校現場ですので、高い報酬を支払って関係機関に相談というわけにはいきません。現場に配置できる人材を確保する予算、あるいは、気軽に無報酬で相談できる関係機関の増加が望まれます。
担当医と連絡を密にとることが必要である。
自閉的であったり、注意障がいの的な行動をとる児童がいます。・・・もしかしたら高次脳機能障がい？という疑問に該当するかどうか難しい問題です。ただ、本当にそうなのかどうかは別として、原因はどうであれ、そういう現在の児童の行動に対して理解を深め、支援をしていける努力をすればいいのではないかと考えています。
支援教育に関わる教員以上に通常学級を担任する教員の認識はより少ないものと思われます。当該障がいのある児童・生徒の保護者についても、正しい理解は少ないものと思われます。20数年前に勤務していた学校で、高熱を出して休んでいた児童が、「怒りっぽくなった」「これまでの学習を忘れている」などの状況が見られましたが、今から考えると、「高次脳機能障がい」だったのだと思います。
次年度、(複数の)脳機能障がいの児童が就学する予定です。ここ最近、支援学級では学習障がい、自閉症の児童しかいなかった為、担当者の手当てに苦労しています。また、ベテラン担当者の高齢化にも悩んでいます。

中学校自由意見

内 容
高次機能障がい生徒は、通常学級の中にも多くいるように思います。支援学級担当だけの問題ではなく、教育に携わるすべての者が学習し理解していかなければならない内容だと思います。
研修会等で保護者への対応、本人や周囲の生徒の理解や対応等学べる機会がほしい。
例年、「高次脳機能障がいの理解と支援」の講演会に参加させて頂いております。本年も12月5日(月)参加予定です。よろしくお願い致します。学習させて頂き、脳の働きの最新情報をキャッチしたいと思っております。
具体的な支援について、専門家の意見や支援方法を聞きたい。
高次脳機能障がいの認識で生徒の状態から把握したことが今までなかった。在籍がないので回答も小学校からの引き継ぎ、把握がないからです。発達障がいについては引き継ぎは良くされています。小学校以下からの引き継ぎ連携が大事になってくる。
該当生徒に対する進路保障に関する詳しい情報をもっとほしい。
学校現場で安全を確保するには、人手が足りず。活動を最大限にさせたい保護者・本人の要望と健康の安全保持のために苦悩している。命にも関わる問題なので、学校の管理責任が問われることになり、苦慮している。
現在のところ、本校に在籍していないが、将来的には入学してくる可能性もありうるので、小学校との連携を密にし、事前の就学指導を徹底していくようにしなければならないが、支援担当のみならず、管理職、保健養護教諭との連携、取り組みの一貫性を模索しておきたい。
研修会等があればぜひ参加させていただきたいので、学校の方にも研修会等の情報をいただければありがたいです。
学校として、どのような支援をしてあげればよいのか、お恥ずかしながらわかりません。研修等で、詳しく教えて頂ければ幸いです。

高等学校自由意見

内 容
この障害に対して、一般的に認識が浅く、理解されていないと思います。また、目には見えない障害で、誤解されやすいので、実態を把握するためにも、講演会などを開催していただき、多くの人に理解を深めていただく機会を与えてほしい。また、研修に参加させていただきたい。
高次脳機能障害についての講演や勉強会はありますが、今まで診断書や保護者本人から報告を受けたことがありません。専門医も少ないと聞きますが、もし相談を受けた場合、どこに問い合わせればいいのか、適切な診断・治療を行える機関を教えてくださいたいと思います。
もっと早くから情報提供がされたらいいなと思います。自立に向けての取り組みの相談機関があるといいと思います。
研修会等で保護者への対応、本人や周囲の生徒の理解や対応方法等学べる機会が欲しい。
現在、高次脳機能障害に関する課題は、本校にはありませんが、今後ありうるかもしれないと考え、情報源や相談する場の必要性は強く感じます。

支援学校自由意見

内 容
前任支援学校高等部に中学校時代の脳機能疾病の後遺症で、高次脳機能障がいの生徒が在籍していた。今後も同様のケースが想定されるので、今後一層の情報提供をお願いしたい。
支援学校の場合、高次脳機能だけでなく、認知機能や知的レベルの低下も併せ持つ症例が多い。高次脳機能に障がいのある生徒の在籍が少ないため、障がい特性の理解がまだまだ進んでいないように思える。
施設の主治医(医師) との連携が取りにくい。

近畿ブロック 研究発表（論文）

著者名	タイトル	発表誌名	巻号（ページ）	出版年
和歌山県				
川崎 美穂	大学生生活を支えて	婦人之友	2011年4月号 128-129	平成23年4月
兵庫県				
澤田 彩映・西村 武・飯塚 哲也・ 奥村 歩美・寺尾 良・香川 智	自立生活訓練センターにおける高次脳機能障害へのアプローチ ～地域移行に向けた個別支援の実際～	平成23年度 全事協実践報告・実務研究論文	158-161	平成23年
大阪府				
久保 博康・栗村 由喜江・ 西野 朋子	大阪府高次脳機能障がい支援普及事業 (4年間の経過と相談支援の状況)	大阪府障がい者自立相談支援センター紀要	第5号	平成24年3月

近畿ブロック 研究発表（学会発表）

発表者名	タイトル	学会名	場所	日時
京都府				
武澤 信夫 他	全盲、高次脳機能障害を伴った脳損傷の2例	第35回日本高次脳機能障害学会学術総会	鹿児島市	平成23年11月12日
杉森 悟子・馬淵 翠 他	高次脳機能障害支援拠点における電話相談からみえてきたもの～退院から在宅へ～	京都地域リハビリテーション研究会	京都市	平成23年11月20日
滋賀県				
滋賀県立リハビリテーションセンター				
武田 慶子	「ぼく、生きてるのかなあ？」～記憶障害に視覚失認を合併した患者の自己意識についての考察～	第45回日本作業療法学会	さいたま市	平成23年6月24日
平田 明希	左手使用にて保続性失書が顕在化した軽度失語症の一例	第35回日本高次脳機能障害学会学術総会	鹿児島市	平成23年11月11日
野洲 達史	高次脳機能障害者に対する体力テストについて	第51回近畿理学療法士学会	大津市	平成23年11月13日
中江 基満	当院での高次脳集団訓練に対する取り組み	第51回近畿理学療法士学会	大津市	平成23年11月13日
兵庫県				
富高 智成・白川 雅之・因來 愛実・ 清水 寛之	健忘症患者における日常記憶の自己評価(4)―メタ記憶質問紙による患者の自己評価と介護者からの評価の比較―	日本心理学会第75回大会	東京都	平成23年9月17日
因來 愛実・白川 雅之・柳内 昌子・ 津田 明子・石谷 典子・東山 毅・ 横山 和正	Attention Process Training IIの訓練課題に対する妥当性の検討―持続性注意課題の基準値の作成―	第35回日本高次脳機能障害学会学術総会	鹿児島市	平成23年11月11日
川島 有紀子・柳内 昌子・ 因來 愛実・白川 雅之・東山 毅・ 横山 和正	単語全体読みを促し、復職に向けたアプローチを行った純粹失読の一例	第35回日本高次脳機能障害学会学術総会	鹿児島市	平成23年11月11日
田中 彩夏・木村 貴子・中居 浩美	高次脳機能障害へのアプローチ～他職種協働による調理訓練の実際～	身体障害者リハビリテーション研究集会2011	水戸市	平成23年 11月17日～18日
因來 愛実	運動行為障害を主症状とした大脳皮質基底核変性症の一例	第16回東播磨脳卒中フォーラム	兵庫県 明石市	平成23年12月1日
川島 有紀子	多彩な視覚認知障害を呈した脳梗塞の一例	第16回東播磨脳卒中フォーラム	兵庫県 明石市	平成23年12月1日

近畿ブロック 研究発表（学会発表）

発表者名	タイトル	学会名	場所	日時
大阪府				
轟 佳代・大谷 直寛・渡邊 学	重度のPusher現象を呈した片麻痺者への理学療法介入による基本動作の変化について	第46回日本理学療法学会大会	宮崎市	平成23年5月30日
高丸 優子・渡邊 学	当院を外来受診した高次脳機能障害例の就労復帰状況	第48回日本リハビリテーション医学会学会学術集会	千葉市	平成23年11月3日
坂本 典子・溝口 秀男・大谷 直寛・渡邊 学・高丸 優子	頭部外傷者のリハビリテーション病棟転棟時における退院先予測—Disability Rating Scale (DRS)を用いて—	第35回日本高次脳機能障害学会学術総会	鹿児島市	平成23年11月11日
渡邊 学・高丸 優子	外来受診高次脳機能障害例の就労復帰状況	第35回日本高次脳機能障害学会学術総会	鹿児島市	平成23年11月11日
酒井 味香子・渡邊 学	高次脳機能障害発症を契機に就労支援を行った「同障害発症前の引きこもり歴12年」の男性症例	第35回日本高次脳機能障害学会学術総会	鹿児島市	平成23年11月11日
餘家 沙織	グループ調理の取り組みについての報告～高次脳機能障がいに対して～	身体障害者リハビリテーション研究集会2011	水戸市	平成23年11月18日
佐野 睦夫・宮脇 健三郎・米村 俊一・大出 道子	高次脳機能障害者のための遠隔調理リハビリテーション	HCGシンポジウム2011	高松市	平成23年12月9日
佐野 睦夫・宮脇 健三郎・米村 俊一・大出 道子	高次脳機能障害者の自立に向けた料理リハビリテーション	電子情報通信学会福祉情報工学研究会	名古屋市	平成24年1月27日

厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）
（分担）研究報告書

高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究

研究分担者 永廣信治 徳島大学脳神経外科教授

研究要旨

四国ブロックでは、四県すべてで支援活動が定着してきた。徳島県では地域病院との連携を図るため高次脳機能障害連絡協議会を立ち上げ、定期的に症例検討会を開催すると共に徳島県版スクリーニングテストを作成・試用し評価が得られた。啓蒙活動を継続しつつ、成果をまとめ学会及び雑誌等で発表した。

A. 研究目的

四国全県において支援活動が定着しつつある。さらに地域社会生活への参加に関する支援体制を充実させるため、現状調査・関係機関への啓蒙活動を行うとともに、研究成果をまとめ発表した。

B. 研究方法

- 1) 四国各県において、連絡協議会や高次脳機能障害講習会・研修会の活動を継続する。
- 2) 支援実態調査：各県の中核施設や関連協力施設での相談件数調査を継続する。
- 3) 各県の支援機関・自治体・家族会の活動状況調査。
- 4) 徳島県では回復期リハビリテーション病院などとの連携を深めるために、高次脳機能障害連絡協議会を立ち上げ、毎月症例検討会を開催した。見当識・短期記憶・半側空間無視・注意力・遂行機能テストを組み合わせた高次脳機能障害スクリーニングテスト徳島版（Higher Brain Dysfunction Screening Test in Tokushima, Hibrid-STTと略す）を作成、共通試用し一定の評価が得られたため、本格的な使用に向けて仕上げる。
- 5) 登録した症例について、追跡調査を行う（倫理面への配慮）
相談件数、活動状況調査は個人の情報を登録・公開することはないため、倫理面について問題はない。

C. 研究結果

各県において講習会・研修会（表1）、委員会等（表2）を開催し、当事者・支援機関・施設関係者等への啓蒙を図るとともに各県における相談件数実態調査（表3）を行い、地域社会生活参加の支援体制の充実を図るための活動内容等についての検討を継続している。
徳島版スクリーニングテスト試用により高次脳機能障害を有する各疾患で経時的に検査し、Hibrid-STT（50点満点）の各年齢正常群での平均値が得られ、スクリーニングテストとして一定の評価が得られたため、本格的な使用を目指して仕上げを行っている。
本年までの成果をまとめ学会で発表したほか、論文を雑誌に投稿し掲載された。

D. 考察

実態調査によると相談件数は着実に増加

し、講演会・研修会等による啓蒙活動を継続的に行うことにより、支援施設の掘り起こしが進み、参加施設数も増加している。受け入れ施設・支援施設等への研修会も定着しつつあり、研究成果は徐々に上がっていると考えられるものの、就学や就労等の社会生活復帰に対する支援体制は十分とは言えず、さらなる体制作りが必要と思われる。

E. 結論

今後、恒常的な成果の積み上げと発展には、継続的かつ精力的な学術的、社会的活動が必要である。

F. 健康危険情報

該当無し

G. 研究発表

1. 論文発表
和泉唯信、中村和己、永廣信治、行政的な「高次脳機能障害」の診断、四国医学雑誌、67: 29-34, 2011
2. 学会発表
(1) 中村和己、高次脳機能障害を呈しながらも長期にわたり受診に至らなかった軽度外傷性脳損傷（MTBI）の1例、第35回日本高次脳機能障害学会学術総会、2011年11月11-12日、鹿児島
(2) 遠藤泰弘、黒田早耶、福島直美、長束友香、事故により高次脳機能障害を呈した患者への評価と復職へのアプローチ～家族・職場カンファレンスを通して～、第35回日本高次脳機能障害学会学術総会、2011年11月11-12日、鹿児島
(3) 福島直美、長束友香、黒田早耶、上河めぐみ、遠藤泰弘、国貞智子、田中幸子、四宮理津子、藤本祥多、永廣信治、中村和己、『高次脳機能障害者に実施したスクリーニングテスト（徳島版）』の試用と有用性[第2報]症例を通しての検討、第35回日本高次脳機能障害学会学術総会、2011年11月11-12日、鹿児島

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当無し

表1 講習会・研修会開催一覧

県名	開催日	会の名称	開催地	参加者数
愛媛県	2011/7/9	(松山リハビリテーション病院) 高次脳機能障害支援拠点機関講習会	松山市	407
	2012/1/28	(松山リハビリテーション病院) 臨床高次脳機能研究会えひめ	松山市	
	2011/12/11	(家族会「あい」) 愛媛高次脳機能障害リハビリテーション講習会	伊予市	260
	2012/1(予定)	(四国中央保健所) 関係機関連絡会	四国中央市	
	2011/11/9	(西条保健所) 高次脳機能障害支援研修会	西条市	65
	2011/9/8	(今治保健所) 高次脳機能障害支援関係者研修会	今治市	57
	2011/11/22	(今治保健所) 高次脳機能障害支援関係者研修会	今治市	32
	2011/8/31	(松山保健所) 平成23年度高次脳機能障害支援普及事業(担当者会)	松山市	26
	2011/10/31	(松山保健所) 平成23年度高次脳機能障害支援普及事業(担当者会)	松山市	25
	2011/12/21	(松山保健所) 平成23年度高次脳機能障害支援普及事業(担当者会)	松山市	21
	2012/2/28	(松山保健所) 平成23年度高次脳機能障害支援普及事業(担当者会)	松山市	
	2011/11/25	(八幡浜保健所) 高次脳機能障害支援普及事業研修会	八幡浜市	32
	2011/11/7	(宇和島保健所) 地域保健保健師研修会	宇和島市	39
	2012/1/25	(宇和島保健所) 高次脳機能障害に関する研修会	宇和島市	
	2012/2/10	(宇和島保健所) 高次脳機能障害に関する研修会	宇和島市	
香川県	2011/8/27	高次脳機能障害支援関係職員研修会	高松市	47
	2011/11/6	第7回香川脳外傷リハビリテーション講習会	高松市	111
	2012/2/19(予定)	高次脳機能障害講演会	高松市	
高知県	2011/7/30	高次脳機能障害研修会「前頭葉障害者の家族教室」	高知市	53名
	2011/11/5	高次脳機能障害リハビリテーション講習会 ～2011高知～ (高知脳外傷リハビリテーション講習会実行委員会主催による共催)	安芸市	38名
	2011/11/19	高次脳機能障害リハビリテーション講習会 ～2011高知～ (高知脳外傷リハビリテーション講習会実行委員会主催による共催)	高知市	101名
徳島県	2011/10/16	(社)日本損害保険協会リハビリテーション講習会	徳島市	133
	2011/7/4	高次脳機能障害研修会	阿波市	29
	2011/12/1	平成23年度高次脳機能障害支援普及事業関係職員研修会 (精神保健福祉センター)	徳島市	72
	2011/12/16	美馬市高次脳機能障害支援交流会	美馬市	12
	2012/1/27	平成24年小松島市民生委員児童委員連絡協議会新年研修会	小松島市	90
	2012/1/31	海陽町介護予防サポーターフォローアップ講座	海陽町	約20名
	2012/2月予定	高次脳機能障害研修会	阿南市	約30名

表2 委員会開催一覧

県名	開催日	会の名称	開催地	参加者数
愛媛県	2011/7/9	(松山リハビリテーション病院) 高次脳機能障害支援担当者会議	松山市	35
	2011/7/21	平成23年度第1回愛媛県高次脳機能障害支援連絡協議会	松山市	31
	2012/1/31	平成23年度第2回愛媛県高次脳機能障害支援連絡協議会	松山市	
香川県	2012/2/27 (予定)	平成23年度香川県高次脳機能障害支援連絡協議会	高松市	13名
高知県	2011/6/21	第一回高次脳機能障害支援委員会	高知市	19名
	2011/9/13	第二回高次脳機能障害支援委員会	高知市	18名
	2012/2/29	第三回高次脳機能障害支援委員会 (予定)	高知市	
徳島県	2011/12/16	高次脳機能障害支援者交流会	美馬市	12
	2012/1/30	高次脳機能障害支援者交流会	三好 保健所	10
	2012/2/21	平成24年度地域支援ネットワークづくり検討会議 (精神保健福祉センター)	徳島市	16予定

表3 相談件数一覧

県名	期間	施設名	相談件数		リハ 訓練数	家庭 訪問
			来所・ 来院 相談数	電話 相談数		
愛媛県	2011/4/1～12/31	愛媛県中核支援施設	6	29	1,613	
	2011/4/1～12/31	愛媛県相談支援協力施設 6箇所	29	13	172	
	2011/4/1～12/31	県内保健所 6箇所・心と体の健康センター	13	35		9
香川県	2011/4/1～11/30	かがわ総合リハビリテーション事業団	52	144		21
	H23.4～H23.12	サンガリハビリプラザ	10	5	約1800	
高知県	2011/4/1～2011/11/30	高知ハビリテリングセンター	5	27	0	3
徳島県	2011/4/12	徳島大学病院	29	7		0
	2011/4～2011/12	精神保健福祉センター	4	3	なし	0
	2011/4～2011/11	徳島保健所	1	4	なし	0
	2011/4～2011/12	阿南保健所	0	0	0	2
	2011/04/01～12/31	ホウエツ病院	1	1	0	0
	H23.7～H23.12	サンガリハビリプラザとくしま	5		約70	

高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究 2011年度 各県活動内容報告書（四国ブロック）

<愛媛県>

愛媛県 平成23年度高次脳機能障害支援普及事業実績報告

1. 県関係

①平成23年度の活動

○協議会

	日 時	内 容
第1回	平成23年7月21日(木) 15:00~16:30	平成22年度事業実績、平成23年度事業計画、その他
第2回	平成24年1月31日(火) 14:00~15:30	平成23年度事業実績(見込み)、平成24年度事業計画、その他

○研修会

今年度は、保健所が中心となって、県内各地で開催した。

保健所名	開催日	参加者数	会議名
四国中央	H24.1月		関係機関連絡会
西条	H23.11.9	65	高次脳機能障害支援研修会
今治	H23.9.8	57	高次脳機能障害支援関係者研修会
	H23.11.22	32	〃
松山	H23.8.31	26	平成23年度 高次脳機能障害支援普及事業(担当者会)
	H23.10.31	25	〃
	H23.12.21	21	〃
	H24.2.28		〃
八幡浜	H23.11.25	32	高次脳機能障害支援普及事業研修会
宇和島	H23.11.7	39	地域保健保健師研修会
	H24.1.25		高次脳機能障害に関する研修会
	H24.2.10		〃

○相談・訪問（6保健所・心と体の健康センター）（H23.4.1~12.31）（人）

来所相談	電話相談	訪問
13	35	9

○広報活動

県のホームページを改訂予定（H24.1~2月頃）。昨年度作成したポスターをホームページからダウンロードできるようにした。

②問題点

○高次脳機能障害の認知度がまだまだ低く、地域には潜在者が想像以上に存在している。

○確定診断が行える医療機関が限られているため、圏域での相談支援協力機関との協力、連携が不可欠だと思うが、その体制がまだできていない。

○関係機関同士の連携が不十分で、一部でケースを抱えている場合がある。

③平成24年度の計画

詳細は、H24.1.31に開催する「平成23年度第2回愛媛県高次脳機能障害支援連絡協議会」で検討予定であるが、各保健所が中心となり実施している研修会や担当者会を通じて、圏域ごとの支援ネットワークを構築するとともに、県内の支援体制について協議会の中で具体的に検討する。

2. 医療関係（中核支援施設と関連施設）

◆支援拠点機関：松山リハビリテーション病院

①平成23年度の活動

○研修会

- H23.7.9 愛媛県生涯学習センター「高次脳機能障害支援拠点機関講習会」
札幌医科大学 石合教授による講演 407人
- H23.7.9 愛媛県生涯学習センター「高次脳機能障害支援担当者会議」 各圏
域の今後の活動予定などグループワーク 35人
- H24.1.28 愛媛看護研修センター「臨床高次脳機能研究会えひめ」 神奈
川リハビリテーション病院 大橋先生による講演及び演題発表

○相談・訓練件数 (H23.4.1~12.31) (人)

来所・来院相談	電話相談	リハ訓練
6	29	1,613

○グループ訓練の実施

○保健所等が主催する研修会に講師等として協力支援

②問題点

○評価ツールの普及と診断について、各病院の医師への協力依頼を進めていく必要がある。

③平成24年度の予定

- 高次脳機能障害支援拠点機関講習会
- 支援担当者会議の開催
- 各保健所等の高次脳機能障害支援普及事業における研修会への参加・協力
- 臨床高次脳機能障害研究会えひめの開催
- グループ訓練の実施及び家族教室の開催

◆相談支援協力機関：県内6医療機関

①平成23年度の活動

○相談・訓練件数 (H23.4.1~12.31) (人)

来所・来院相談	電話相談	リハ訓練
29	13	172

②問題点

○重度の患者が来院した場合、認知症状・精神障害・知的障害との判別が難しいため、対応に苦慮している。

- 院内職員への周知
- 確定診断に向けた流れの構築
- 社会的行動障害者に対する支援などが困難
- ③平成24年度の予定
 - 家族会、各種研修会や講習会への継続参加
 - 保健所と協力して研修会の開催
 - 院内・院外への周知活動
 - 他機関と連携した就労支援
 - 高次脳機能障害患者（入院・外来）に対する支援の充実

3. 家族会：愛媛高次脳機能障害者を支援する会「あい」

- ①構成家族数 33家族
- ②平成23年度活動報告
 - 定例会 月1回（八幡浜、松山、今治のいずれかで開催）
 - 家族：近況報告、ピアカウンセリング、レクレーション、学習
 - 当事者：レクレーション、グループ活動、制作
 - リハビリ講習会（12月11日 伊予病院大ホール）
 - ・家族会「あい」グループワーク「愛くぼ」からの報告
指導員 作業療法士 森 ちえみ
 - ・「高次脳機能障害とは ー知っておいていただきたいことー」
愛媛大学教育学部特別支援心理学教授 山下 光
 - ・「家庭でのリハビリ ー自立に向けてー」
岐阜医療科学大学保健科学部看護学科教授 阿部 順子
 - 「あいの家」運営
 - ・グループワーク「愛くぼ」の活動
 - グループワーク「愛くぼ」運営
 - ・週2回 5～3名
職業体験へ2名ステップアップ
- ③課題、要望
 - 医療から離れてからが大変。医療を離れると、大部分の当事者は、病識のない方は特に、在宅となり引きこもりがちになる。
 - 連続した支援への研修やネットワーク構築への活動を展開してほしい。
- ④平成24年度の計画
 - 定例会
 - リハビリ講習会及び相談会
 - 「あいの家」活動と活動資金造成研究
 - グループワーク「愛くぼ」活動と活動資金造成研究

<香川県>

平成 23 年度活動報告

かがわ総合リハビリテーションセンター

担当スタッフが、支援コーディネーター1名から、相談支援専門員1・生活訓練事業責任者1が追加され、計3名で活動している。

1 今年度の活動実績

- ① 相談支援（個別相談、定期面接、ケース会議参加等）
- ② 地域のネットワーク構築
 - ・各地域自立支援協議会への参加、情報交換会実施
 - ・高次脳機能障害支援連絡協議会開催
- ③ 普及・啓発活動
 - ・支援関係職員研修会
 - ・高次脳機能障害講演会
 - ・施設職員研修会（講師）
 - ・香川障害者職業センタージョブコーチ支援事業推進協議会（講師）
 - ・社会福祉士会研修会（講師）

2 現在の課題と今後の方針

医療機関との連携は、法人内の生活訓練・就労移行支援事業を実施している成人支援施設との関係も含めて、ほぼ確立している。また、地域の行政や福祉機関で抱えているケースに関しても、これまでの経験を活かして支援をしている場合が多く見受けられ、必要に応じて、ケア会議に参加するという連携もある。しかし、そういう支援を全く受けていないケースが、地域にまだ大勢いると思われる。そういう人たちの掘り起こしが、今後できるようになればと考えている。

その為には、一般県民向けの障害についての普及・啓発活動をより活発にすることや、地域により密着した支援者との連携を進めていきたい。

<高知県>

H23 年度高次脳機能障害相談支援センター事業報告(H23.4 月～12 月)

1. 活動報告

4 月		平成 22 年度報告書作成
	21 日	精神科医会 支援センター紹介
5 月	9 日	高知県障害保健福祉課市町村担当者会 支援センター紹介
6 月	2 日	神経内科医会 支援センター紹介
	11 日	高知リハビリテーション医学懇話会
	21 日	第一回高次脳機能障害支援委員会
7 月	30 日	高次脳機能障害研修会「前頭葉障害者の家族教室」
8 月	18 日	支援コーディネーター会議 (ハビリ内)
9 月	1 日	全県調査の打ち合わせ
	11 日	高知県リハビリテーション研究大会
	13 日	第二回高次脳機能障害支援委員会
	22 日	支援コーディネーター会議 (ハビリ内)
10 月		
11 月	5・19 日	2011 高知高次脳機能障害リハビリテーション講習会
12 月		

**23年度 高次脳機能障害相談支援センター相談実績
(H23.4月～12月)**

2. 相談業務
のべ相談件数

	面接	電話	合計	
				うち新規
4月	1件	5件	6件	5件
5月	0件	4件	4件	2件
6月	1件	2件	3件	1件
7月	0件	8件	8件	7件
8月	0件	2件	2件	2件
9月	0件	1件	1件	0件
10月	1件	2件	3件	3件
11月	2件	3件	5件	3件
12月	0件	2件	2件	2件

コーディネーターが対応したその他の件数

	面接	電話	訪問	カンファレンス	合計
4月	3件	21件	2件	2件	28件
5月	7件	26件	1件	1件	35件
6月	0件	1件	0件	0件	1件
7月	1件	5件	2件	0件	8件
8月	0件	9件	0件	0件	9件
9月	0件	7件	1件	0件	8件
10月	0件	0件	0件	0件	0件
11月	0件	3件	0件	1件	4件
12月	0件	0件	0件	0件	0件

H23年度高次脳機能障害相談支援センター活動予定 (H24.1月～3月)

1月		
2月	23日	平成23年度第2回支援コーディネーター全国会議 (東京都)
	24日	平成23年度第2回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会及び公開シンポジウム
	29日	第三回高次脳機能障害支援委員会
3月		